

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体			17200000	健康こども こども未来		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	04	保育園施設費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	①500人 ②40.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て							
小事業	06	保育園 I C T 活用事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	児童の発達は、一人一人違うため、保育士間で情報共有し保育にあたる必要がある。児童一人一人の発達を保育士が、その都度記録入力することで情報共有を図り保育につなげる必要がある。
	事業目的	(1) 対象 保育を必要とする児童及び保育士 (2) 目的 ・保育士の質の向上を図り、コミュニケーションを充実し、人財育成を図る。 ・個々の子どもの状態を把握し保育を充実させる。 ・保護者が安心して預けられる保育環境を構築する。
	事業概要	MIMOTEを活用し保育の質を向上させるとともに保育士の人財育成を図る。 ・全国へのシステム導入と安定化 ・各園でデータを活用したフィードバック会議を行うことで、それぞれの保育を振り返り、常に保育の質を向上させることを意識する。 ・月に1回程度、全国長が集まり、I C T 全体会議を開催、MIMOTE の活用方法やデータの分析等について話し合うことで情報共有していく。
	事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	4,373 4,373 5,504 4,076 3,851
	決算額	4,318 3,780 5,254 4,043
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	9,000 / 2,500

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02 R03 R04 R05 R06
	フィードバック会議の開催	目標値 12 12 12 12 12
	実績値	20 12 12 12

アウト カ ム	K P I （単位）	R02 R03 R04 R05 R06
	本事業がスキルアップに有効と感じる保育士の割合（％）	目標値 80 85 85 90 90
	実績値	91 90 90 90



実
績

実 績	ICT園内研修（入力したデータをもとにして、子どもへの理解、保育士のかかわり方、家庭への支援についてなど） 各園12回
効 果	平成28年の導入以来、定期的なプログラムの仕様変更を行い、より入力がしやすく、また事後の利活用を行いやすいプログラムへと改修している。このため、保育士の満足度も高く、公立保育園での保育に欠かすことのできないプログラムとなっている。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	MIMOTEに入力したデータに基づくフィードバック会議を月1回ペースで開催できている。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	美濃加茂市の保育に沿ったプログラムとして定期的に仕様変更を行っており、スキルアップに有効であると感じる保育士の割合は高い。
実績からR06年度の 事業の方向性	引き続きMIMOTEを活用することで、保育の質の向上、保育士のスキルアップに役立てていく。 事業の効果検証を行い、結果を保護者（市民）にわかりやすく伝えていく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17200000	健康こども こども未来	
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	06	学童保育費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	①生まれる赤ちゃんの人数（年間） ②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	①500人 ②40.0%
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て							
小事業	12	放課後児童健全育成事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	放課後に家庭での保育に欠ける児童を預かることで、安心して保護者が就労等ができる環境を整える必要がある。				
	事業目的	(1) 対象 保護者が就労等により放課後等の時間帯に留守となる家庭の小学1年から4年までの児童を対象とする。（空きがある場合は6年生まで） (2) 目的 ・保護者が就労等により放課後等の時間帯に留守となる家庭の児童に対して生活の場を提供することにより、保護者が安心して子育てと就労を両立できる環境を整える。 ・保護者留守家庭の児童を健康で安全に生活させ、健全な育成に努めることにより、保護者が安心して働くことができる。特にCaminhoカミーノが目指す女性が輝き夢を叶えられる美濃加茂市となる。				
	事業概要	放課後等における児童の居場所を確保するための就労支援事業 ・保護者が就労等により放課後等の時間帯に留守となる家庭の小学1年生から4年生（6年生）までの児童に、生活の場を提供する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	112,378	121,251	118,397	131,259	145,895
	決算額	111,265	114,568	116,572	130,285	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	705 / 179				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	各校区での開設率（ただし三和小は伊深小にて合同開設）%	目標値	100	100	100	100	100
		実績値	100	100	100	100	

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	放課後児童クラブ利用者の満足度 （「普通」以上）%	目標値	97	97	97	97	97
		実績値	97.8	98	98	99	



実
績

実 績	保護者が安心して働くことができるよう放課後児童クラブを運営した。 ・開設教室 市内10教室 ・利用許可人数 967人
効 果	各学区で放課後児童クラブ事業を開設している。保育に欠ける児童を預かることで、安心して保護者が就労等ができる環境を整えている。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	各小学校の協力もあり、各学区で放課後児童クラブ事業を開設できている。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	小学校の理解もあり、各校区で開設できている。業務委託先により、保護者に対するケアが十分できているため、満足度が高いと考えている。
実績からR06年度の 事業の方向性	小学校5・6年生を含め希望する児童を受け入れることができるようにする。加茂野小学校については施設整備の必要性も検討する。サウンディングを実施し、長期休業期間の弁当提供、保育料や利用時間の見直しを検討する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体				17200000	健康こども こども未来		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	03	民生費	02	児童福祉費	04	保育園施設費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	①生まれる赤ちゃんの人数（年間）				目標値	①500人
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て		②女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合					②40.0%
小事業	14	里山保育事業		目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	・地域にある身近な自然環境を活用できていない。 ・少子高齢化、人口減少など社会状況の変化により家庭における子育て力や地域コミュニティにおけるつながりの低下など子どもを取り巻く環境が変化しており、保育園の役割が大きくなっている。 ・子ども主体、ひとりひとりに丁寧に関わる保育、とことん遊ぶ時間の保証、自然体験の重要性などを保育士が再認識して保育にあたっているがそれを共有する時間の不足と保育士自体が不足しており、保育が十分に行えない現状があるため、里山保育を充実させようとする保育士が足りていない。				
	事業目的	（１）対象 公立保育園、公立こども園に通う子ども （２）目的 子どもの五感を刺激し、健康な心と体を作る等の幼児期に育てるべき能力を育む。子どもの成長の基盤を作り、保育の質の向上と人材育成、里山千年構想に掲げる里山資源の活用を実現する。				
	事業概要	身近にある里山等の自然環境を活用した保育を日常的に継続して取り入れる。 ・講師による保育士対象の研修会実施 ・里山などの自然に触れる体験 ・園庭を里山遊びのフィールドにするための工夫した園庭づくり ・安全安心な里山遊びのフィールド整備				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額				2,600	3,579
	決算額				1,374	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	640 / 430				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	モデル園との交流保育回数	目標値			12	12
		実績値			22	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	里山保育実施回数	目標値			100	
		実績値			206	



実
績

実績	里山保育事業での各園交流保育 22回 里山保育実施回数 206回 里山保育の指針作成に向けた会議の開催
効果	・子ども中心、遊び中心の保育を進め、子どもたちに必要な力（非認知能力）を育むため、公立園全体で、どんな保育をしていくか（保育観）を共有することができた。 ・遊びの中で、好奇心、自己肯定感、コミュニケーション力、などが育ち、人としての基礎を築くことができる。 ・地域の環境を活かし、「こと」「ひと」「もの」などに関わる意欲や態度が育まれる。 ・保育士のスキルアップ、質の向上を図る。



評
価
分
析

活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	・里山保育ビジョンを作成し、説明会を行い各保育士と保育観を共有した。 ・交流保育を通して様々な環境の中で遊ぶことで、好奇心や試行錯誤、やり抜く力などが育まれるなど子どもの成長がみられた。
K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	・日常の保育が里山保育であり、各園での環境を生かして保育を充実させ実践している。 より事業の効果を図ることができる指標とするため、R6からKPIを里山保育（保育内容）の満足度（％）に変更する。
実績からR06年度の事業の方向性	・各園の特色を活かした保育の実践 ・里山保育の指針作り ・里山保育、保育士配置基準の策定 ・他園との交流（いろいろな環境の中で遊ぶ体験） ・地域のひととの交流を持つ ・先進地視察や研修の受講、園内研修などを行い、保育士のスキルアップと保育の質の向上を図る

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	17200000	健康こども こども未来
大事業	C1	6つのまちづくり宣言 多文化共生	款項目	03 民生費	02 児童福祉費
		目指す姿	みんなで一歩を踏み出そう！		01 児童福祉総務費
中事業	02	主要な取り組み	外国人児童生徒の教育支援		
小事業	02	プレスクール事業			
			目標年度	令和6年度	

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	外国にルーツのある子どもが日本語、母語の理解がどのくらいの力があるのかわからないため、園生活の中で保育士、子どもがお互いに円滑なコミュニケーションが取れないことがある。また、保護者への連絡事項や意思疎通が難しい。日本語や日本の生活習慣や学校生活のルールなどについての理解が進まず、就学時に勉強や学校生活に困り感をもち学校生活が楽しい姿がみられない。保護者から勉強や学校での集団生活の大切さ、言葉の理解、生活習慣等についての理解、協力が得られにくい。				
	事業目的	(1) 対象 外国籍児童及び外国にルーツを持つ子ども (2) 目的 保育中に対象児童を集め、日本語教師により実施し、公立小学校入学直前の外国籍児童に対して、日本での生活指導、日本語指導を日本人同様に早期対応が出来、小学校就学時の4月より、通常学級に入学できるようになる。				
	事業概要	・外国籍児童と外国にルーツを持つ子ども等を対象とし、保育中に年長児童と年中児童を年齢ごとに集めて指導を行う。 ・日本で生活していく上で基本的な生活指導、日本語指導、自分の名前の読み書きなどができるようになる。また、集団生活に馴染むことが出来る。日本の学校生活や学校文化に適応する授業を年間を通じて開催する。 (市内の外国籍児童と外国にルーツを持つ児童が多く在籍している園の4園で実施)				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	633	633	633	633	1,261
	決算額	623	615	626	629	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	750 / 0				

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	プレスクールを実施する園の数	目標値			2	2	2
		実績値			3	4	

アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	語彙調査の結果（点数が上がった子の割合%）	目標値			80	82	85
		実績値			95	95	



実 績	実績	4園で実施 ・太田第一保育園 年長児5人、年中児4人 ・あじさい保育園 年長児4人、年中児4人 ・加茂野保育園 年長児5人、年中児7人 ・森山学園 年長児8人
	効果	・園にいる時間にプレスクールを実施するので保護者の負担がなく、学ぶ機会が持てる。 ・カリキュラム、子どもの様子に合わせて行うことで、日本語の理解が広がり、母語の理解も進む。 ・日本語やひらがなの読み書き、日本の学校のルールの理解が広がることでスムーズな就学につながり、子ども自身も安心して学校生活を送ることができる。その後の日本での生活が安定したものとなる。



評 価 分 析	活動指標分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	市内で外国にルーツのある園児が多い園で実施するので、R5は4園で実施した。
	K P I 分析 ※目標値の達成 ・未達成要因	日常の園生活の中での学びも大きいですが、プレスクールでは、日本語の理解だけでなく、日本の小学校のルールや友だちとのかわり方など遊びを通して学ぶことができることで、日本語の理解が広がり、就学につなげることができた。
	実績からR06年度の事業の方向性	・引き続き4園で実施する。 ・日本語の理解を深めるには、母語の理解が大切なので、多文化共生室と連携し、家庭(保護者)への働きかけを強くしていく。 ・外国人が経営する認可外保育園に通っている子どもも対象とする。